

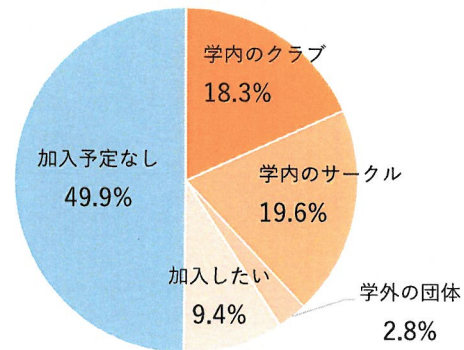
Ⅲ. クラブ・サークル

Q 1 1. 課外活動について

学内外の何らかのクラブ、サークル、団体に加入している学生の割合（①②③の合計）は40.7%で、第59回学生生活実態調査（全国大学生生活協同組合連合会、2023年）のサークル・部活動への加入率60.2%と比べるとかなり少ない。学年別でみると、大学1年生が53.8%、2年生が34.4%、3年生が28.9%、4年生が25.4%、また短大1年生が38.5%、短大2年生が20.9%と学年が進むにつれて加入率は低くなり、短大生のほうが全体的に低い。

課外活動について

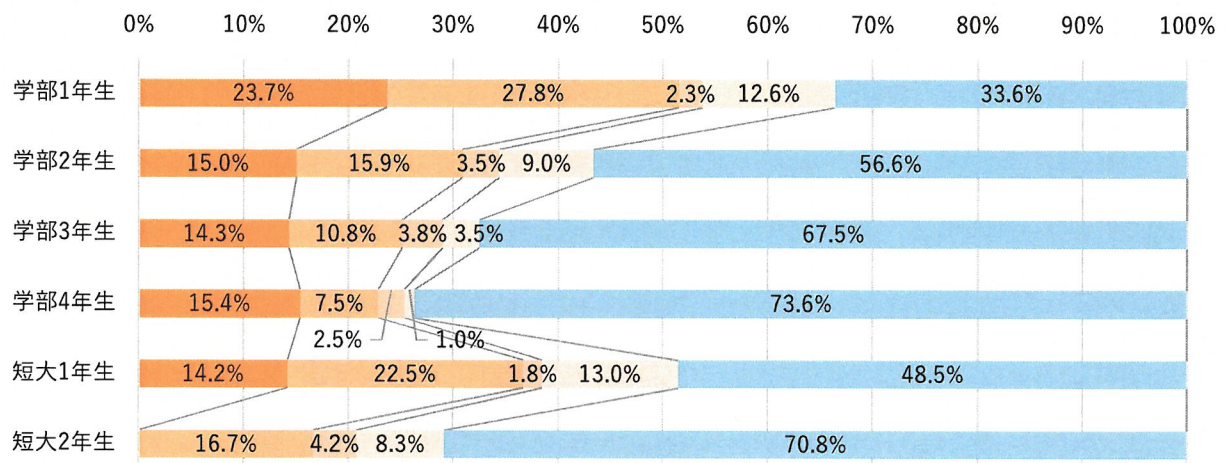
- ①学内のクラブに加入
- ②学内のサークルに加入
- ③学外の団体に加入
- ④加入したいと考えている
- ⑤加入する予定はない



課外活動について

学年別

- ①学内のクラブに加入
- ②学内のサークルに加入
- ③学外の団体に加入
- ④加入したいと考えている
- ⑤加入する予定はない

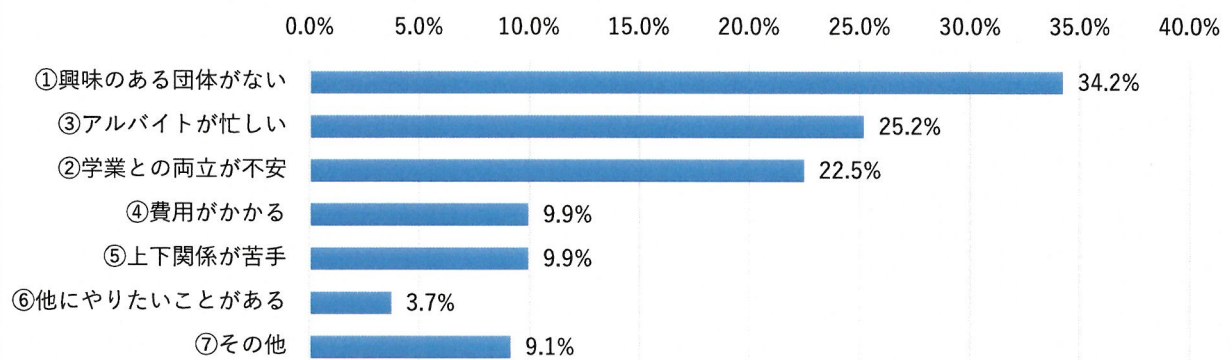


Q 1 2. 加入する予定がない理由（複数選択可）

クラブ・サークルに加入する予定がない理由で、一番多かった回答は「興味のある団体がない」であるが、コロナ禍の影響や学生のクラブ離れ等によって、クラブ数そのものが減少しており、選択肢が減っていることも要因の一つであると考えられる。

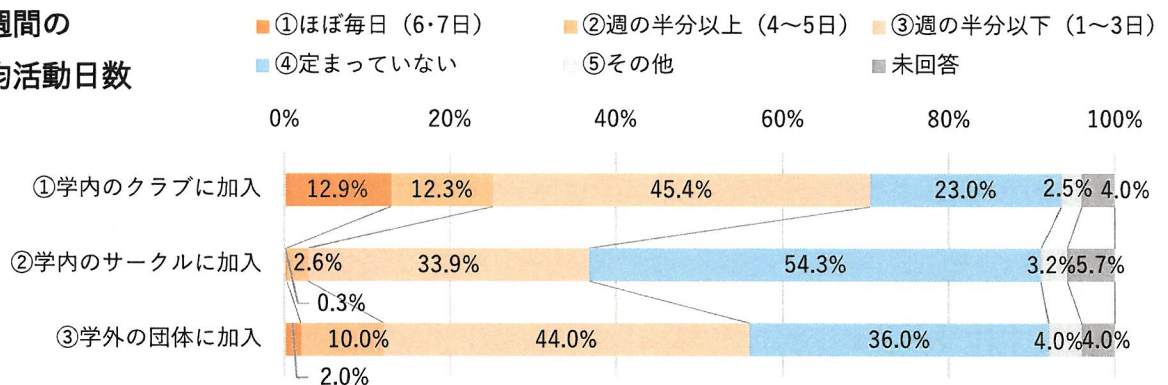
アルバイトが忙しいという声や、学業との両立が不安という声に対しては、各クラブ・サークルが自分たちはどういう目的・目標に向かってどのような活動をしているのかということを丁寧に情報発信して、新たなメンバーが入りやすい環境を作っていく必要があるだろう。また、各クラブ・サークルの現状の活動についても、活動日数や活動時間、活動内容をいま一度精査し、効率化を図り、クラブ・サークルと他の活動を両立しやすい環境を目指していく必要があると思われる。

加入する予定がない理由(複数選択可)



Q 1 3. 一週間の平均活動日数

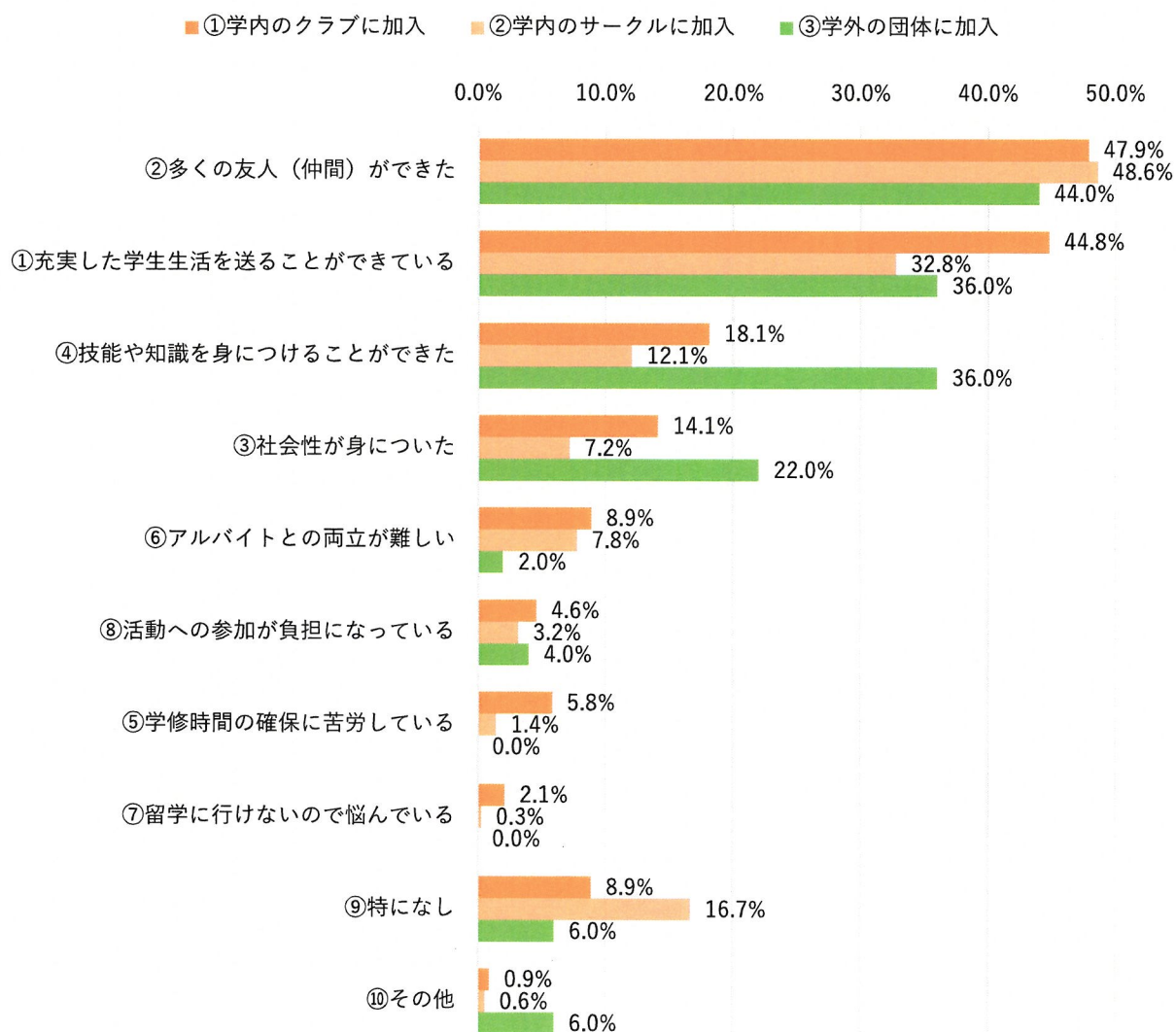
全体でみると、サークルよりクラブのほうが一週間の平均活動日数が多い傾向があるが、活動内容や団体としての目標によって活動日数は当然変わってくるので、その多寡によって良いとか悪いとかは一概にはいえない。ただ、活動内容や活動時間がクラブ・サークル以外の活動との両立を難しくしているのであれば、週内の曜日によって活動内容にメリハリをつけたり、一日の活動の中身を洗練させて活動時間の短縮を図ったり、シーズン制を導入してシーズンオンとシーズンオフのメリハリをつけたり、オンラインを有効に活用したりして、他の学生生活との両立がしやすい方向を目指していくことは、すべてのクラブ・サークルの活動に共通するテーマであると考えられる。

一週間の
平均活動日数

Q 14. 活動に関する感想（複数選択可）

多くの友人ができた、充実した学生生活を送れているという感想が多いのは、クラブ・サークルで活動することが個々の学生自身の学生生活全体を豊かにすることにつながっていることの証であり、よい傾向と考える。友人関係、学生生活の充実度について、クラブ・サークルに加入していない人と比較したときに割合の違いが見えれば、加入を促す材料のひとつになるだろう。ただ、大学のクラブ・サークルの活動の存在意義としては、団体内の交流だけではもの足りない。学外の様々な人、団体との関わりを深めていくことによって、専門的な技能や知識を身につけることができた、社会性が身についた、という感想がもっと増えていくことが好ましい。

活動に関する感想(複数選択可)



Q 15. クラブ・サークルを選択するうえで重視した(する)ポイント(複数選択可)

自分が加入したいクラブ・サークルを選択するポイントとして、大学生活を充実させたい、高校までの活動を継続したい、友人を増やしたいといった点を重視する傾向がみられる。また、人格形成や社会性の向上を選択ポイントにする学生も少なくない。また、クラブ・サークル以外との活動の両立ができるかどうかを選択ポイントにしている学生も少なくない。

選択するうえで重視した(する)ポイント(複数選択可)

